

定部金貳錢 廣五號十二休 日曜大祭 福島縣石城郡平町長崎町三五  
 料五十五錢 日祝日祭 發行所 常盤毎日新聞社 電話六三〇番  
 日刊 發行編輯人 川崎文治 本社下町番地(電話六三〇番) 印刷所 常盤毎日印刷所

# 常盤新聞

三月三日夕刊

## 平町新吉田眼科醫院

ムテキは弊店が拾數年來の久しき間實驗上其の的確なる効果を認め深き自信と責任とを以て各位に御薦致します

ゆびは 毒病  
 やびは 毒病  
 梅淋 毒病  
 くちさ 毒病  
 ささり 毒病  
 かはき 毒病  
 されす 毒病

代理店 阿康藥舖 電話四四番

## 大至急店員募集

十四五歳 小學校卒業程度  
 希望ノ方ハ早速來談アレ

### 中野吳服店

## 私立藤田裁縫女學校生徒募集

本校ハ裁縫、家事及技藝等ヲ齊家ニ須要ナル科目ヲ中心ニ更ニ高等普通教育ヲ施シ淑徳ヲ涵養シ智能ヲ啓發シ以テ地方有爲ノ女子ヲ養成スルヲ以テ目的トス

- 1、普通科 百五十名 (高等科通シテ二年卒業)
- 2、高等科 若干名 (高等科卒業後、高等女學校及他ノ科ニシテ進級)
- 3、速成科 三十名 (一ヶ月卒業、卒業以上ノ者ニシテ進級)
- 4、手藝科 若干名 (一ヶ月卒業、卒業以上ノ者ニシテ進級)
- 5、高等女學部 五十名 (高等科卒業後、高等女學校卒業以上ノ者ニシテ進級)
- 6、高等女學部 若干名 (高等科卒業後、高等女學校卒業以上ノ者ニシテ進級)

入學資格ハ本校高等科速成科卒業者及本校高等女學部第三年在學者ナルヲ以テ同科希望者ハ先ツ普通科速成科又ハ高等女學部ニ入學サレタシ

右各科(部)共入學ヲ許ス志願者ハ本校規定在學證書ニ適當記入捺印ノ上二月十五日ヨリ三月卅一日迄平町私立藤田裁縫女學校ニ提出スベシ

◎定員超過ノ際ハ在學證書提出ノ順ニ採用ス  
 ◎詳細ハ本校宛學則請求セラルベシ(返信料二錢封入)  
 福島縣平町(電話三二八番)

### 常盤論壇

#### 現内閣の經濟政策批判

(六) 三土忠造

(二)在野時代の公約を奈何然らば政府の公債非公募主義なるもの、抑々何人が喜ぶのであるかといふと、大都會に於ける大資本家、大工業家、大實業家が喜ぶばかりである、即ち政府が銀行を通じて公債を市場に公募せざるが爲に、是等の大なる實業家は非常なる利益を受けるのであるが、是が反面に於て中産以下の大多數の國民は悲嘆に苦むの

である、故に吾々は此公債非公募政策と云ふものは決して今日の時宜に適したものでないかと考へる、兎に角公債政策に於て議論は違ふが政府が公債の金高を非常に減じて今日まで放漫であつたものを根本より立て直した如く言ふけれども、剰餘金の繰入に於て、自然増収の見込に於いて或は又公債の金高に於ても大した變りはないあるだけのものを歳入に繰入れて、さうした財政の膨脹を來したのである。即ち政府は在野時代に於てあれ程までに整理節約緊縮の餘地がある如く宣傳したのであるから、斯の如く膨大なる前古未曾有の歳

計豫算を茲に提案するに於ては議會の劈頭に於て總理大臣及大藏大臣は「自分共は在野時代に於て斯様な主張をして國民に公約したのであるが、自ら局に當つて見て財政の實情を考へて見ると云ふと在野時代に言うて居つた事は根本から間違つて居つた、如何にも相濟まなかつた斯々の事情である」と云うて國民に向つて謝罪をしなければならぬ。私は決して現内閣諸公の如く言葉の上で争ふ人間でない事實を事實として云ふのである、如何に詭辯を弄して口舌上に巧みなりと雖も數字上の問題は争ふことが出来ぬ (つゞく)

## 泌尿婦人科皮梅毒科

外科 阿部醫院

平町字新川町電話六一五番

## ヒヨケ・シート・テント

敷島ヒヨケ店

磐城平町南白銀町九一電話シキ又ハシ



道 印半天專門  
 優秀品の証明  
 草野染工場  
 電話二四八番  
 磐城平町

## 耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

平町紺屋町(電話一七〇番)

## 原齒科醫院

平町土橋通り電話三一一番

和服一般 婦人洋服 小供洋服

阿部裁縫塾 平鍛冶町(電話二四六番)

## 三井吳服店

平町三丁目 電話三十八番

## 店員募集

一、小學校卒業程度 五名  
 一、商業學校卒業生 二名

御希望の御方は店則並に詳細御面談可致に付至急御申込被下度候

平町四丁目 鶴屋商店 電話百四十番

## 店員募集

小學卒業程度 十四五六歳位

御希望の御方は御來談被下度候

平町四丁目 鶴屋商店 電話百四十番

基徳院葬送の際に御鄭重なる御弔詞御香奠を賜はり且つ遠路態々御會葬被下奉深謝候一々拜趨の處乍略儀以紙上不敢御禮申上候

昭和二年三月四日

男 鈴木 莊夫  
 男 鈴木 章夫  
 男 鈴木 親戚 一同

### 子供等のために お話祭が欲しい

夫れにしても藤田校の  
試みは極めて面白いと

櫻井賢文氏語る

西洋にはストーリーフエイ  
ステバル即ち話祭りとい  
ふやうな催しが行はれて  
るさうであります、これは  
子供のために有益な話を  
提供して くれた人  
々の記念日に於てするもの  
であります、即ちアンダー  
セン祭だとかグリン祭或は  
各々の國における話作者  
の記念日に室内をその人の  
残した話にあるやうな地  
方或は時代の装飾を施しお  
話しの空気を

暗示的に 現しました

聞く子供等も總てそれに關  
連する人物の服装をして一  
つの話の世界を作り只重  
話を子供等に讀ませたり話  
して聞かせたりして得る効  
果よりもそれ以上を豫期し  
て行はれるものであります  
このお話祭は十五年ほど  
前から行はれ初めたもので  
始めは右に述べたやうな

装飾とか 服装でも

つて單にお話を聞かせた  
だけのものであります、  
今では話劇となり童謡舞  
踊等も行はれるやうになり  
ました、このお話祭は誠  
に面白い試みといふべきで  
當然我日本でも行はるべき  
ものであります、我國には  
惜しいことには

るもの、如くで村としては  
本郡始めての試みであり縣  
補助もあることゝ願ふ有

### 相場が下落しても 白米の値を下げぬ

一般から非難の聲あり

近く監督権發動

石城地方米價市況は既報の  
如く一月上旬の卅二圓五十  
錢を最低とし漸次高値を示  
し去る十九日の三十六圓を

頂上とし再び漸落

の歩調をとり二十三日から  
三十五圓三十二錢の安値を  
示し引續き漸落しつつある  
にも拘らず平米穀商組合で  
は二日各等米共一錢宛の値  
上げを断行し上白米四十一  
錢と云ひ去月上旬の最高値  
段當時と同相場を以て賣買  
してゐるので一般から非難  
の聲あり

組合側 では高い當

時買入れた米であるから營  
業上當然のことであると言  
つてゐるが當局に於ても近  
く何等かの舉に出づるもの  
と觀られてゐる

平町の鼠退治 平町

農會では一日午前九時から



鯛のしほ汁

材料——大鯛の頭又は骨付  
の身(百匁)食鹽(少量)木の  
芽(少量)味の素(少量)醤油  
(一滴)

益な事業として同業組合で  
は目下各町村に向つて設置  
の奨励をなしてゐる

### 野菜類値上

寒氣で品薄め

石城地方では近年春蔬菜  
培が盛んに行はれてゐるが  
特に平窪、好間、飯野、泉  
準備——鯛は一吋角位の大  
きさに切り捌鉢のやうな物  
に入れて鹽をふりかけ約一  
時間も置いて鹽が溶けたら  
熱湯をタツプリ掛けて手早  
く二回かきまぜ直に湯を  
捨て冷水を入れ換へ入れか  
へして冷やし指先にて皮付  
のところを擦り鱗の残つて  
ゐるのを落して敷策に並べ

二ヶ月間に

平署管内火災

平署管内三町十八ヶ村では  
毎年冬期に於て防火思想の  
普及に努め各町村毎に火防  
隊を組織し防火其の宜敷を  
得て居るが去る一二月中に  
於ける同署管内の火災は八  
件で此れが直接の損害は三  
萬五千七百餘圓の巨額に達  
したと

少將の忘れ物

平譯着列車に  
廿七日午後九時廿五分平譯  
着常磐線下り列車の二等室  
内に船來のみごとな星形襟  
章の付いたオーバーがある  
のを發見驛では處置に困つ  
てゐた處目下航空船組立の  
ため霞ヶ浦航空隊に來朝滞  
在中の空の勇者ノビレ少將  
が置き忘れたものと判明土  
浦へ送つた

虎丸來る

浪花節で有名な龍甲齊虎丸  
は五日平譯場に於て得意の  
語り物を披露する由で一行  
には吉右衛門、左虎丸、虎  
市其他何れも一角の真打株  
が夫々馬力をかけて御機嫌  
を取り結ぶとの事にて一等  
席が金一圓、どんな事があ  
つても日延をしないとい  
ておきます

調理——鍋に水一升程とた  
ひを入れて強火にかけ浮き  
あがる泡を丁寧に取り除き  
沸騰したら弱火として尙暫  
く煮て鯛丈けを引あげ残り  
の汁に醤油一滴と食鹽にて  
味をつけ味の素少量を入れ  
たひと共に茶碗に盛り木の  
芽を吸口として入れます

### 經濟生活の脅威に 備へる郵便年金

平局の取扱成績良好

社會生活が複雑になり色々  
の困難や不安が加はつた現  
代に於ては將來の經濟生活  
をしっかりと保障する何物か  
がなければ何人も安心して  
其日々を過ごすことは出来  
ぬといふ處から即ち將來經  
濟生活の脅威に對し豫め備  
へる方法として政府は昨年  
十月から郵便年金を稱して

加入者は一定の期間掛け  
金をかけ續けるか又は一  
時に掛け金を拂ひ込むか  
して置けば政府は之れを  
利殖して定つた年齢から

死亡に至る迄一生の間官  
吏や軍人の恩給のやうに  
毎年元利金から成る年額  
の支拂をなす

制度を實施してゐるが平町  
をはじめ飯野神谷高久平窪  
好間の一町五ヶ村を區域と  
する平局の取扱成績は頗る  
良好にして本月三十日迄に  
決定すべき其筋割當口數七  
十口に對し期限前の今日す  
でに七十四口の多數に達し  
今後なほ増加の傾向にある  
而して加入者は日常掛け金  
の便宜多き商人を最多とし

### 配付の計畫

石城の旱害地へ

醫師俸給生活者、料理店、  
其他あらゆる階級を網羅し  
あり炭礦等の關係にて一般  
の氣風概ね輕佻の傾きある  
やの土地柄なるに拘らず此  
の種將來に備へんとする加  
入者の多數なるはその間地  
方人士の有する恒心の決し  
て少いものでないことを證  
據立てるものとして當局で  
は喜ぶべき現象と見てゐる

### 果樹栽培研究

技術者を招聘

石城郡の果樹栽培は氣候風  
土の關係から頗る有望にし  
て年産額廿萬圓と注せられ  
農家の専副業として極めて  
重要されてゐるが過般創設  
された石城果樹組合では品  
質の向上と増收を期するた

### 募集

文藝其他投稿

め各方面から技術員を招き  
手入れ其他につき講習を受  
てゐる、而して果樹園の手  
入れは剪定整枝等は既に修  
了し目下施肥並に病虫害驅  
除の目的で藥劑の撒布等を  
盛んに行つてをり明年度は  
理想的な果樹園を作ると組  
合で意氣込んでゐるから今  
後の成績は蓋し見るべきも  
のあらうと期待されてゐる

### 平町人事

出生

△五丁目五 鈴木徳安氏五男政雄  
△三丁目二九 鈴木幸太郎(六四)